

平成30年度
公益社団法人日本地すべり学会
関東支部
総会資料



The Japan Landslide Society
Kanto Branch

平成30年5月7日
東京大学武田先端知ホール

お知らせ

本部行事

第57回研究発表会及び現地見学会（新潟県新潟市：朱鷺メッセ、8/21-8/24）

参加申込：平成30年5月8日（火）正午～平成30年7月20日（金）正午まで

発表申込：平成30年5月8日（火）正午～平成30年5月31日（木）正午まで

シンポジウム（東京都：一橋大学一橋講堂、6/13）

テーマ：豪雨を誘因とする土砂災害の予測と住民避難行動へのアプローチ

支部行事

今後、現地検討会等を次の通り予定しております。

詳細情報は、決まり次第、学会メーリングリストで連絡するほか、関東支部ホームページに掲載します。

区分	時期	場所	備考
第1回現地検討会	6～7月頃	神奈川県	都市部の地すべり
第2回現地検討会	10～11月頃	山梨県	昭和41年足和田災害
共催事業	未定	未定	斜面協会との共催事業
若手対策	未定	未定	若手向け見学会、講習会

平成 30 年度

公益社団法人日本地すべり学会関東支部

総会次第

日時：平成 30 年 5 月 7 日（月）11:00～12:00

場所：東京大学工学部 武田先端知ホール（東京都）

1. 開会
2. 挨拶 関東支部長 櫻井正明
3. 来賓紹介・挨拶
一般社団法人斜面防災対策技術協会関東支部長 上野雄一 殿
4. 議事
 - 4 - 1. 議長選任
 - 4 - 2. 議案
 - 第 1 号議案 支部役員の選任に関する件
 - 第 2 号議案 事業報告及び決算の承認に関する件
 - 第 3 号議案 関東支部運営内規の一部変更に関する件
 - 4 - 3. 報告
 - 報告 1 運営委員・幹事の退任・選任に関する報告
 - 報告 2 平成 32 年研究発表会に関する報告
 - 報告 3 平成 30 年度事業計画・予算に関する報告
 - 4 - 4. その他
5. 閉会

【参考】関東支部会員数

基準日	議決権を持つ支部会員数		総会の定数
	基準日における支部会員	基準日以降に支部に所属した正会員(個人)：総会出席者	
平成 30 年 3 月 31 日	417 名	4 名	(+)/5 = 85 名

第 1 号議案 支部役員を選任に関する件

1 . 支部役員を選任

第 3 期(平成 28-29 年度)の支部役員が任期が満了するにともない、関東支部運営内規第 4 条にもとづいて、次の支部役員を選任する。

第 4 期 (平成 30-31 年度) 支部長、副支部長、監事

2 . 支部役員候補者

運営委員会による推薦者は、次のとおりある。

表 1 支部役員候補者

役職	氏名	所属	備考
支部長	櫻井 正明	株式会社 山地防災研究所	再任
副支部長	若井 明彦	国立大学法人 群馬大学大学院	再任
監事	道畑 亮一	一般財団法人 砂防・地すべり技術センター	新任
監事	小山 兼広	群馬県 環境森林部 森林保全課	新任

3 . その他の支部役員

第 4 期 (平成 30-31 年度) の運営委員、幹事は、支部長が委嘱することから (関東支部運営内規第 4 条)、5 月末頃までに決定される見込みである (関東支部 Web で公開予定)

第 2 号議案 事業報告及び決算の承認に関する件

1. 平成 29 年度事業報告

(1)総会

平成 29 年 5 月 12 日(金)11:00～12:00

東京大学武田先端知ビル 武田先端知ホール(東京都)

出席者数 22 名 委任状数 104 名 計 126 名(定足数 84 名以上)

(2)シンポジウム

平成 29 年 5 月 12 日(金)12:45～17:00

東京大学武田先端知ビル 武田先端知ホール(東京都)

参加者：108 名

シンポジウム「過去の災害から学ぶ - 突発的に発生した斜面災害の事例から - 」

- ・岩盤崩壊から学ぶ～第 2 白糸トンネル岩盤崩壊を中心に～ 上野将司(応用地質(株))
- ・昭和 60 年に発生した地附山地すべりの実態と地形・地質的課題 古谷尊彦(千葉大名誉教授)
- ・蒲原沢土石流災害について～初期積雪期の土石流発生事例～ 丸井英明(新潟学名誉教授)
- ・総合討論(コーディネータ：櫻井正明)
- ・概要集発行

(3)意見交換会

平成 29 年 5 月 12 日(金)17:30～19:30

東京大学山上会館(東京都)

参加者：51 名

(4)現地検討会

第 1 回現地検討会 - 平成 28 年 9 月台風 13 号に伴う集中豪雨による土砂災害 -

平成 29 年 8 月 3 日(木)9:45～17:50

群馬県沼田市利根町柿平地区

協力：群馬県環境森林部森林保全課、利根沼田環境森林事務所、関東地方整備局利根川水系砂防事務所

参加人数：19 名

第 2 回現地検討会 - 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨災害 芹沢地区 -

平成 29 年 10 月 18 日(水)10:00～16:45

栃木県日光市芹沢地内

協力：国土交通省関東地方整備局日光砂防事務所

参加人数：11 名

(5) 斜面協会との共催事業

栃木県上塩原地すべり合同見学会

平成 29 年 11 月 28 日(火)9:45～15:45

栃木県那須塩原市上塩原地内

主催：(公社)日本地すべり学会 関東支部、(一社)斜面防災対策技術協会 関東支部

協力：栃木県県土整備部砂防水資源課、大田原土木事務所

参加者：28 名

(6) 若手対策費支出事業

若手会員等の関東支部行事への参加推進キャンペーン

・ 関東支部の学生会員・若手正会員への案内状の送付 3 回

・ 現地検討会の参加費の減額(3,000 円) 1 名

地すべりの基礎を学ぶための現地見学会

平成 29 年 9 月 22 日(金)10:00～16:30

神奈川県相模原市緑区名倉地内、藤野中央公民館

・ 座学：「地すべりの基礎」上野将司(関東支部技術委員)

・ 現地見学：名倉地区の現地踏査

・ 座学：質疑応答、調査観測機器の説明

参加者：35 名(会員 10 名、非会員 25 名)

地すべりを学ぶ座談会

平成 29 年 11 月 8 日(水)14:00～17:00

TKP スター貸会議室東京駅八重洲(東京都)

・ 話題提供：「地すべりの調査・研究の進め方」上野将司(関東支部技術委員)

・ 参加者の話題提供、質疑応答、意見交換

参加者：16 名(会員 14 名、非会員 2 名)

(7) 運営委員会・幹事会

運営委員会

・ 第 1 回 平成 29 年 4 月 13 日 ダイヤコンサルタント会議室(東京都)出席者 14 名

・ 第 2 回 平成 29 年 12 月 4 日 ダイヤコンサルタント会議室(東京都)出席者 14 名

幹事会

・ 第 1 回 平成 29 年 4 月 13 日 ダイヤコンサルタント会議室(東京都)出席者 16 名

・ 第 2 回 平成 29 年 6 月 9 日 日本工営会議室(東京都)出席者 14 名

- ・第3回 平成29年8月29日 ダイヤコンサルタント会議室（東京都）出席者12名
- ・第4回 平成29年12月4日 ダイヤコンサルタント会議室（東京都）出席者13名
- ・第5回 平成30年3月19日 日本工営会議室（東京都）出席者8名

(8) 群馬県環境森林部と「災害時における調査の相互協力に関する協定」に基づく災害調査
平成29年10月25日

群馬県高崎市吉井町大字多胡 日向地区

参加者：6名

(9) 広報活動等

- ・関東支部 Web ページ更新

(10) 平成32年度研究発表会の準備

- ・開催時期等の検討（意見集約を含む）

2. 平成29年度決算

表2 平成29年度決算(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

		事業収支再掲		
		収益	費用	収支差
収益	当期収益	事業収益	218,000	
		シンポジウム	218,000	
		意見交換会	255,000	
		現地検討会	105,000	
		受取利息	16	
	預り金	0		
	小計	578,016		
	資金移動(本部→支部)	292,391		
	予備費	(100,000)		
	計	870,407		
費用	当期費用	事業費	169,624	
		シンポジウム	169,624	
		意見交換会	243,320	
		現地検討会	133,772	
		共催事業	47,388	
		若手対策	132,202	
	協賛金	0		
	管理費	148,929		
	小計	875,235		
	計	875,235		
当期収支差				▲4,828

※ 当期末払金 10,983円

3. 監査報告

平成29年度の支部事業及び会計について、支部監事により監査を行った。

監査報告書（関東支部）

平成30年4月5日

公益社団法人 日本地すべり学会
会 長 落合 博貴 殿

監事 石田博文 (印)

監事 向井啓司 (印)

平成29年4月1日から平成30年3月31日までの会計及び業務の監査を行い、次の通り報告する。

1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて決算書の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、会議等への出席、又は支部長から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- (1) 決算書は、会計帳簿の記載金額と一致し、支部の経理の状況を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 支部の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上

別表1 平成29年度(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

				予算	決算	決算-予算	備考
【収益】							
勘定科目							
大科目	中科目	小科目	細目				
支部収益				540,000	578,016	38,016	
	事業収益			540,000	578,000		
		シンポジウム収益		380,000	473,000	93,000	
			参加費	180,000	218,000	38,000	¥2,000-×109名
			意見交換会費	200,000	255,000	55,000	¥5,000-×51名
		現地検討会収益		160,000	105,000	▲ 55,000	
			参加費	160,000	105,000	▲ 55,000	第1回:参加者15名(内0名学生) 第2回:参加者11名(内0名学生)
			意見交換会費			0	
		大会収益		0	0	0	
	受取利息				16	16	
	預り金						
本部仮払金				300,000	292,391	▲ 7,609	
当期収益合計(A1)				840,000	870,407	30,407	
内)未収入金(A2)							
【費用】							
勘定科目							
大科目	中科目	小科目	細目				
支部費用							
	事業費			680,000	726,306	46,306	
		シンポジウム会費		370,000	412,944	42,944	
			印刷製本費	100,000	83,700	▲ 16,300	創文印刷工業(150部)
			会場費	9,000	6,800	▲ 2,200	東京大学山上会館
			会議費	200,000	236,520	36,520	意見交換会飲食費
			諸謝金	10,000	30,000	20,000	
			旅費交通費	50,000	40,920	▲ 9,080	講師旅費
			通信運搬費		9,280	9,280	
			支払手数料	1,000	4,968	3,968	口座振替手数料
			消耗品		756	756	
			備品			0	
			雑費			0	
		現地検討会費		220,000	313,362	93,362	
			印刷製本費	20,000		▲ 20,000	
			会場費		50,090	50,090	
			会議費		21,490	21,490	昼食代
			諸謝金		34,000	34,000	
			旅費交通費	180,000	3,230	▲ 176,770	高速代
			旅費交通費-借料		141,830	141,830	レンタカー
			通信運搬費	8,000	31,148	23,148	宅急便代
			支払手数料	2,000	4,824	2,824	口座振替手数料
			消耗品		350	350	コピー代
			備品			0	
			保険料	10,000	26,400	16,400	傷害保険料
			雑費			0	入館料
		その他の事業費		90,000	0	▲ 90,000	
			印刷製本費	40,000		▲ 40,000	
			会場費	50,000		▲ 50,000	
			会議費			0	
			諸謝金			0	
			旅費交通費			0	
			旅費交通費-借料			0	
			通信運搬費			0	
			支払手数料			0	
			消耗品			0	
			備品			0	
			保険料			0	
			雑費			0	
		諸会費				0	
	管理費			160,000	148,929	▲ 11,071	
		給与・手当				0	
			パート給与			0	
			アルバイト給与			0	
		会場費		77,000	77,000	0	東京大学武田先端知ホール
		会議費				0	
			支部総会費			0	
			幹事会・運営委員会費			0	
			技術委員会費			0	
		印刷製本費		10,000		▲ 10,000	
		旅費交通費				0	
		通信運搬費		33,000	41,000	8,000	切手代等
		消耗品	事務用品費	15,000	28,115	13,115	封筒代(H29未払金)
		事務費	OA費、HP維持管理費	20,000		▲ 20,000	
		備品				0	名札、安全ベスト等
		外注費				0	
		支払手数料		2,000	2,304	304	口座振替手数料
		公租公課	印紙代			0	
		雑費		3,000	510	▲ 2,490	残高証明手数料
当期費用合計(B1)				840,000	875,235	35,235	
内)未払い金(B2)				0	10,983	10,983	
当期収支差額(C=A1-B1)				0	▲ 4,828	▲ 4,828	
前期繰越額(D)				1,578,740	1,578,740	0	
内)前期未払い金(E)							
次期繰越収支差額(D+C+B2-E)				1,578,740	1,584,895	6,155	

第3号議案 関東支部運営内規の一部変更に関する件

関東支部運営内規を下記のとおり変更する。

表3 関東支部運営内規の新旧対照表

旧	新	事由
<p>(文書の保管)</p> <p>第20条 文書番号を付した文書は、発信した文書の控えを事務局が保管する。</p> <p>2. 文書番号を付した文書の保管期間は、原則として発信後2年間とするが、必要な場合は保管期間を延長することができる。</p>	<p>(文書の保管)</p> <p>第20条 文書番号を付した文書は、発信した文書の控えを幹事長が保管する。</p> <p>2. 文書番号を付した文書の保管期間は、原則として発信後2年間とするが、必要な場合は保管期間を延長することができる。</p> <p><u>(名簿等の管理)</u></p> <p><u>第21条 支部会員名簿は、必要に応じて、幹事長が本部より提供を受けて、管理する。</u></p> <p><u>2. 支部会員名簿等の取り扱いにあたっては、データの漏えいの防止等のために、必要な処置を講じなければならない。</u></p>	<p>平成29年9月より、支部の事務責任者(幹事長)は、本部の会員情報の一部にインターネットを介してアクセスできることとなったため</p>
	<p><u>(会計書類の管理)</u></p> <p><u>第24条 会計書類は、直近2年分を会計担当の幹事が保管する。また、それ以前の方は、本部に保管を依頼する。</u></p> <p><u>2. 会計書類の取り扱いにあたっては、滅失、き損の防止等のために、必要な処置を講じなければならない。</u></p>	<p>平成30年4月より、3年度以上前の会計書類(年度別)を本部に保管を依頼できるようになったため</p>

<p>付 則</p> <p>1 . 本運営内規は、平成 24 年 10 月 1 日から施行する。</p> <p>2 . 本運営内規の変更（第 4 条、第 17 条）は、平成 28 年 5 月 12 日から施行する。</p> <p>3 . 本運営内規の変更（第 21 条、第 23 条、第 24 条）は、平成 29 年 5 月 12 日から施行する。</p>	<p>付 則</p> <p>1 . 本運営内規は、平成 24 年 10 月 1 日から施行する。</p> <p>2 . 本運営内規の変更（第 4 条、第 17 条）は、平成 28 年 5 月 12 日から施行する。</p> <p>3 . 本運営内規の変更（第 <u>22</u>条、第 <u>25</u>条、第 <u>26</u>条）は、平成 29 年 5 月 12 日から施行する。</p> <p>4 . 本運営内規の変更（第 <u>20</u>条、第 <u>21</u>条、第 <u>24</u>条）は、平成 30 年 5 月 7 日から施行する。</p>	
--	--	--

報告 1 運営委員・幹事の退任・選任

支部長が委嘱する運営委員・幹事に関する退任・選任は、次のとおりである。

1. 運営委員・幹事の退任

平成 30 年 4 月 1 日付で退任した運営委員・幹事は次表のとおりである。

表 4 退任した運営委員・幹事

区分	氏名	所属	備考
運営委員	秋山一弥	国立大学法人 筑波大学 生命環境系	本人の届出による (H29/4-30/3)
	上野将司		技術委員専任
	武藤敏正	山梨県 県土整備部 砂防課	本人の届出による (H28/4-30/3)
幹事	中嶋薫	群馬県 環境森林部 森林保全課	本人の届出による (H29/4-30/3)
	高木将行	国立研究開発法人 土木研究所	本人の届出による (H29/4-30/3)

2. 運営委員・幹事の選任

平成 30 年 4 月 1 日付で新たに選任した運営委員・幹事は次表のとおりである。

表 5 選任した運営委員・幹事

区分	氏名	所属	備考
運営委員	越智英人	山梨県 県土整備部 砂防課	H30/4 より
幹事	束田健靖	群馬県 環境森林部 森林保全課	H30/4 より
	竹下航	国立研究開発法人 土木研究所	H30/4 より

3. 平成 29・30 年度代議員の交替

関東支部選出の代議員のうち、正会員(団体)の代表者として選出された代議員に、代表者の変更があったことから、平成 30 年 4 月 16 日に代議員の変更を本部に届け出ました(理事会報告事項)。

表 6 交替を届け出た平成 29・30 年度代議員(関東支部)

区分		氏名	
群馬県環境森林部森林保全課	旧	石田 博文	イシダ ヒロフミ
	新	小山 兼広	コヤマ カネヒロ
山梨県県土整備部砂防課	旧	武藤 敏正	ムトウ トシマサ
	新	越智 英人	オチ ヒデト

別表2 第3期(平成28・29年度)関東支部役員 平成30年4月1日現在

区分	氏名	所属	備考	役割分担
支部長	櫻井 正明	株式会社山地防災研究所		
副支部長	若井 明彦	国立大学法人 群馬大学大学院 理工学府		
監事	向井 啓司	一般財団法人 砂防・地すべり技術センター 斜面保全部		
	石田 博文	群馬県 環境森林部森林保全課		
運営委員	落合 博貴	一般社団法人日本森林技術協会		
	天野 一男	日本大学文理学部地球科学研究所上席研究員・茨城大学名誉教授		
	後藤 聡	国立大学法人 山梨大学 大学院 医学工学総合研究部		
	執印 康裕	国立大学法人 宇都宮大学 学術院		
	蔡 飛	国立大学法人 群馬大学 大学院 工学研究科		
	佐藤 剛	帝京平成大学 大学院 環境情報学研究所		
	白木 克繁	国立大学法人 東京農工大学 農学部森林環境学講座		
	井上 敬資	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門		
	浅野 志穂	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 森林研究部門 森林防災研究領域		
	久保 徹	神奈川県 県土整備局 河川下水道部 砂防海岸課		
	越智 英人	山梨県 県土整備部 砂防課	新任	
	山崎 勉	国土防災技術株式会社 技術本部		
	丸 晴弘	日本工営株式会社		
	木村 勝美	株式会社ダイヤコンサルタント 防災・保全事業部	幹事兼務	
	滝口 潤	明治コンサルタント株式会社 東京支店防災課	幹事兼務	
林 一成	奥山ボーリング株式会社	幹事兼務		
幹事長	小林 豊	日本サーベイ株式会社		総括
副幹事長	小野田 敏	アジア航測株式会社 コンサルタント事業部		会計
	平木 慎一	株式会社日さく 東日本支社 調査部		総務1
幹事	竹下 航	国立研究開発法人 土木研究所 土砂管理研究グループ		企画2
	正田 大輔	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門		企画2
	鈴木 拓郎	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 森林研究部門 森林防災研究領域		総務1
	束田 健晴	群馬県 環境森林部 森林保全課		広報
	井川 崇	神奈川県 県土整備局 河川下水道部 砂防海岸課		広報
	大久保 憲治	山梨県 県土整備部 砂防課		広報
	木村 勝美	株式会社ダイヤコンサルタント 防災・保全事業部		総務2
	滝口 潤	明治コンサルタント株式会社 東京支店防災課		企画1
	林 一成	奥山ボーリング株式会社		企画1
	齋藤 雅志	国土防災技術株式会社 技術本部技術部		企画1
	岩間 倫秀	日本工営株式会社 国土保全事業部 防災部		総務2
	谷本 彰	応用地質株式会社 東京支社		企画1
	田中 昭雄	環境地質株式会社		企画1
出納事務担当者	小野田敏	アジア航測株式会社 コンサルタント事業部	会計担当幹事	
支部情報・事務責任者	小林 豊	日本サーベイ株式会社	幹事長	

幹事会役割分担

区分	内容	担当者
総括	全体調整・渉外	小林(幹事長)
会計	会計処理、監査対応、通帳の保管・出納処理	小野田(副幹事長)
総務1	総会等運営	平木(副幹事長)・鈴木
総務2	幹事会・運営委員会運営	木村・岩間
企画1	現地検討会、講習会(共済事業を含む)の企画・運営	滝口・林・齋藤・谷本・田中
企画2	シンポジウムの企画・運営	竹下・正田
広報	広報活動・関係機関調整	束田・井川・大久保
特任事項	支部Web管理	林
	共催事業	木村
	研究発表会(全国大会)	(当面は支部長担当)

報告 2 平成 32 年研究発表会に関する報告

1. 担当支部の決定

平成 30 年 3 月 15 日開催の第 4 回理事会において、平成 32 年(2020 年)の研究発表会は、関東支部の担当とすることが承認された。

2. 開催地等の報告

次回理事会に、開催地等を下記のとおり選定したことを報告し承認を受ける予定である。

開催地：山梨県甲府市

開催時期：平成 32 年 9 月

別表 3 研究発表会の担当支部等

開催年	担当グループ	担当支部	開催県
平成 20 年(2008)	東日本	関東支部	神奈川県
平成 21 年(2009)	北日本	新潟支部	新潟県
平成 22 年(2010)	西日本	九州支部	沖縄県
平成 23 年(2011)	東日本	中部支部	静岡県
平成 24 年(2012)	北日本	北海道支部	北海道
平成 25 年(2013)	西日本	関西支部	島根県
平成 26 年(2014)	東日本	関東支部	茨城県
平成 27 年(2015)	北日本	東北支部	山形県
平成 28 年(2016)	西日本	関西支部	高知県
平成 29 年(2017)	東日本	中部支部	長野県
平成 30 年(2018)	北日本	新潟支部	新潟県
平成 31 年(2019)	西日本	九州支部	熊本県
平成 32 年(2020)	東日本	関東支部	山梨県(予定)

報告3 平成30年度事業計画・予算に関する報告

1. 平成30年度事業計画

- (1) 支部総会：平成30年5月7日
(東京大学工学部武田先端知ビル 武田先端知ホール)
- (2) シンポジウム：平成30年5月7日
(東京大学工学部武田先端知ビル 武田先端知ホール)
・テーマ：地形・地質から見た関東の地すべり
・意見交換会(東京大学アプルポア)
- (3) 現地検討会
・平成30年7～10月 2回程度
- (4) 技術講習会ほか
・若手向け基礎技術講習会 2回程度
- (5) 共催行事
・平成30年10～12月 (一社)斜面防災対策技術協会関東支部との共催
- (6) 運営委員会・幹事会等
運営委員会
第1回平成30年4月 第2回平成30年12月
幹事会
第1回平成30年4月、第2回平成30年6月、第3回平成30年9月
第4回平成30年12月、第5回平成31年3月
斜面防災対策協会関東支部との定例会
平成31年1月
- (7) 災害調査
・災害発生状況に応じて適宜実施
- (8) 平成32年大会準備活動

2. 平成30年度予算案

平成30年度予算は次のとおりである(理事会承認)。

表7 平成30年度予算(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

		事業収支再掲			
		区分	収益	費用	収支差
収益	当期収益	事業収益	シンポジウム	180,000	
			意見交換会	200,000	
			現地検討会	80,000	
			受取利息	0	
			預り金	0	
		小計		460,000	
		予備費		(100,000)	
		資金移動(本部→支部)		0	
		計		460,000	
	費用	当期費用	事業費	シンポジウム	261,000
意見交換会				206,000	
現地検討会				160,000	
共催事業				50,000	
若手対策				90,000	
管理費			83,000		
小計		850,000			
計		850,000			
当期収支差					▲390,000

別表 4 平成 30 年度予算(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

【収益】				
勘定科目				
大科目	中科目	小科目	細目	
支部収益				460,000
	事業収益			460,000
		シンポジウム収益		380,000
			参加費	180,000
			意見交換会費	200,000
		現地検討会収益		80,000
			参加費	80,000
			意見交換会費	
	雑収益			
	受取利息			
	預り金			
本部仮払金(下記に内訳を記載)				
当期収益合計(A1=支部収益+本部仮払金)				460,000
内)収益合計中の未収入金(A2)				
【費用】				
勘定科目				
大科目	中科目	小科目	細目	
支部費用				850,000
	事業費			767,000
		シンポジウム会費		467,000
			印刷製本費	100,000
			会場費(会場使用料)	86,000
			会議費(意見交換会含む)	200,000
			諸謝金	80,000
			旅費交通費	0
			支払手数料	1,000
			雑費	
		現地検討会費		160,000
			印刷製本費	20,000
			諸謝金	20,000
			借料(バス・レンタカー代)	100,000
			通信運搬費	8,000
			支払手数料	2,000
			支払保険料	10,000
			雑費	
		技術講習会費		90,000
			印刷製本費	40,000
			会場費(会場使用料)	20,000
			諸謝金	30,000
			支払保険料	
			雑費	
		※その他の事業活動(上記の3つ以外)		50,000
		共催行事		
			印刷製本費	
			借料(バス・レンタカー代)	50,000
			支払保険料	
			雑費	
			その他	
	管理費			83,000
		印刷製本費		10,000
		通信運搬費		33,000
		消耗品	事務用品費	15,000
		情報システム費	OA、サーバ管理費	20,000
		支払手数料		2,000
		雑費		3,000
当期費用合計(B1)				850,000
内)未払い金(B2)				
当期収支差額(C=A1-B1)				-390,000
未払い金				
前払い金				
前受金				
前期繰越額(D)				1,584,895
前期未払金(E)				10,983
次期繰越額(D+C-E)				1,183,912

公益社団法人日本地すべり学会 関東支部運営内規

第1章 総則

(目的)

第1条 この内規は、公益社団法人日本地すべり学会関東支部の運営を円滑に進めることを目的として定める。

2. 関東支部の運営は、公益社団法人日本地すべり学会定款、公益社団法人日本地すべり学会規則(以下「学会規則」という)、支部運営細則、土砂災害緊急調査細則、研究発表会実施細則及びこの運営内規に基づいて実施する。

第2章 支部役員

(支部役員)

第2条 関東支部に、学会規則の定める支部長、副支部長、支部監事のほか、運営委員、幹事長、副幹事長、幹事を置く(以下「役員」という)。

2. 役員の設定は下記のとおりとする。

支部長	1名
副支部長	1~2名
支部監事	2名
運営委員	5~20名
幹事長	1名
副幹事長	1~2名
幹事	5~20名

3. 副支部長を2名置く場合は、代行順位を付けるものとする。第1順位の副支部長は、支部長に事故あるときにその職務を代行する。

(職務・報酬)

第3条 運営委員は、支部の運営を協議する。

2. 幹事は支部の運営に関する実務を行い、幹事長はこれを総括する。副幹事長は幹事長を補佐する。

3. 役員は、無給とする。

(選任)

第4条 支部長、副支部長、支部監事は、運営委員会が支部に所属する正会員のうちから推薦し、支部総会において選任する。

2. 運営委員は、支部に所属する正会員のうちから支部長が委嘱する。

3. 幹事長、副幹事長、幹事は、原則として、支部に所属する正会員のうちから支部長が委嘱する。

(任期)

第5条 役員は、2年とする。ただし、再任は妨げない。

2. 支部長、副支部長、監事の任期の始期は、総会において選任された時とし、次期

役員が総会において選任された時までとする。

3. 運営委員、幹事長、副幹事長、幹事の任期の始期は、支部長が委嘱した時とし、次期役員が委嘱される時までとする。

4. 役員が欠員となったときには、役員を選任することができるが、任期の終期は、欠けた役員の任期の終期と同じとする。

(解任)

第6条 役員が、次のいずれかに該当するに至ったときには、総会の決議によって解任することができる。

(1) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えられないとき。

(2) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき

第3章 支部総会

(構成・議長)

第7条 支部総会は、支部に所属する正会員をもって構成する。

2. 支部総会の議長は、支部総会において、支部に所属する正会員(役員を除く)の中から選出する。

(決議事項)

第8条 支部総会は、支部に関する次の事項を決議する。

(1) 運営内規の変更、廃止

(2) 事業報告及び決算

(3) 会計および業務執行に関する支部監事の報告

(4) 支部長、副支部長、支部監事の選任又は解任

(5) 幹事長、副幹事長、運営委員、幹事の解任

(6) その他、支部総会で審議することが決議された事項

(定足数・議決)

第9条 総会は、支部に所属する正会員の1/5以上の出席がなければ開催することができない。

2. 総会の議事は、出席した正会員の過半数を持って決し、可否同数の時は、議長の決するところによる。

3. 総会に出席できない正会員が、書面をもってあらかじめ意思を表示した場合は、総会の定足数及び議決数に算入する。

4. 支部総会の議事については、議事録を作成しなければならない。

5. 支部長は、支部監事から、その事由を付した文書により支部総会の開催を請求さ

れた場合は、速やかに支部総会の招集をおこなわなければならない。

第4章 運営委員会 (構成・招集・議長)

第10条 運営委員会は、支部長、副支部長、支部監事、運営委員のほか、幹事長、副幹事長をもって構成する。

2. 運営委員会の会議は、支部長が招集する。また、会議の議長は、支部長または副支部長がこれにあたる。

(決議事項)

第11条 運営委員会は、支部に関する次の事項を決議する。

(1) 支部総会に付議するべき事項

(2) 支部総会の決議事項の執行に関する事項

(3) 事業計画及び予算

(4) 支部長、副支部長、支部監事の推薦

(5) その他運営に関する事項

(議決)

第12条 運営委員会の議事は、決議について特別の利害関係を有する者を除く出席した運営委員会の構成員の過半数をもって決する。

2. 運営委員会の議事については、議事録を作成しなければならない。

3. 運営委員会は、支部運営細則第6条第3項および第4項に規定する会議を兼ねるものとする。

第5章 幹事会 (構成)

第13条 幹事会は、幹事長、副幹事長、幹事をもって構成する。

2. 支部運営を円滑に行うため、幹事長の下に総務、会計、広報、企画の担当を置く。

(役割)

第14条 幹事会は、支部長の指揮を受けて、次の事項を実施する。

(1) 総会、運営委員会の決議事項に関する事項

(2) 支部長の指示した事項

(3) その他運営に関する事項

(会議)

第15条 会議は、幹事長が招集し、必要に応じて、支部長または副支部長の参加を求

めることができる。また、支部監事は、必要に応じて、会議を傍聴することができる。

2. 会議の議長は、幹事長または副幹事長がこれにあたる。

3. 幹事長は、会議の内容について、支部長に報告しなければならない。

(事務局)

第16条 幹事会の事務を効率的に処理するために、事務局を設置することができる。

2. 事務局の設置及び運営に関する事項については、支部長が定める。

第6章 災害調査 (職務)

第17条 支部長は、支部区域で発生した災害に対して、調査チームを組織して、情報収集及び現地調査を行うことができる。

2. 支部長は、土砂災害緊急調査細則に定める土砂災害緊急対応委員会から要請があった場合は、調査団員の派遣等を行うものとする。

第7章 研究発表会実行委員会 (設置)

第18条 支部長は、研究発表会実施細則第4条に定められた研究発表会開催の要請を受け、実施を委任された場合は、研究発表会実行委員会を設置する。

2. 研究発表会実行委員会の設置のための準備、設置されるまでの間の対応は、幹事会が行うものとする。

第8章 文書管理 (文書番号)

第19条 支部の運営上発信が必要な文書で、支部の公印を押捺した文書は、文書番号を付すものとする。

(文書の保管)

第20条 文書番号を付した文書は、発信した文書の控えを事務局が保管する。

2. 文書番号を付した文書の保管期間は、原則として発信後2年間とするが、必要な場合は保管期間を延長することができる。

第9章 会計処理 (金銭の出納)

第 21 条 支部における金銭の出納、収納および保管は、会計担当の幹事が行うものとする。

2 . 支部が管理する預金の出納に使用する印鑑は、支部長の職名を刻した印とし、会計担当の幹事が保管し押印する。

3 . 支部運営細則第 8 条に規定する支部の出納事務担当者には、会計担当の幹事をあてる。

(監査)

第 22 条 支部監事は、決算時および必要と認められる場合は、支部の会計について監査を行い、文書により支部総会に報告しなければならない。

第 10 章 技術委員・研究会

(技術委員)

第 23 条 支部長は、技術者教育、啓発活動を行うために、原則として、支部に所属する正会員のうちから、技術委員を委嘱することができる。

2 . 技術委員の任期は、第 5 条に定める役員の任期と同等とする。

(研究会)

第 24 条 支部長は、特定のテーマの調査研究活動を行うために、研究会を設置することができる。

付 則

1 . 本運営内規は、平成 24 年 10 月 1 日から施行する。

2 . 本運営内規の変更(第 4 条、第 17 条) は、平成 28 年 5 月 12 日から施行する。

3 . 本運営内規の変更(第 21 条、第 23 条、第 24 条) は、平成 29 年 5 月 12 日から施行する。

(公社) 日本地すべり学会 関東支部 平成 29 年度総会・シンポジウム開催報告

1. 実施概要

- (1) 開催日：平成 28 年 5 月 12 日（金）11：00～
- (2) 開催場所：東京大学工学部武田先端知ホール
（東京都文京区弥生 2-11-16）
- (3) 主催：(公社) 日本地すべり学会 関東支部
- (4) 来賓：
（一社）斜面防災対策技術協会関東支部長 上野雄一氏
（公社）日本地すべり学会会長 落合博貴氏
（公社）日本地すべり学会名誉会員 古谷尊彦氏
（公社）日本地すべり学会名誉会員 藤田壽雄氏
- (5) 参加人数

総会：22 人、委任状 104 人（定足数 84 名以上）

シンポジウム：108 人

（支部会員 72 人、名誉会員 2 名、他支部・非会員 34 人）

意見交換会：51 人

（支部会員 43 人、名誉会員 2 人、他支部・非会員 6 人）

2. 内容

(1) 総会

議長：内田勉氏（(公社) 森林保全・管理技術研究所）

1 号議案では、支部役員の退任に伴い下記 1 名の役員が出席者の賛成多数で選任された。

・監事：石田博文

2 号議案では、前年度の事業報告・決算報告が賛成多数で承認された。

3 号議案では、関東支部運営内規（支部役員の選任、災

害調査に関する項目）の一部変更が賛成多数で承認された。

また、運営委員・幹事の退任・選任、平成 29 年度の事業計画・予算、平成 32 年度研究発表会の準備、若手向け会員対策の計画・実施についてそれぞれ報告があった。

また、参考として、群馬県と関東支部で締結した災害協定、平成 28 年度の第 1 回および第 2 回現地検討会についてそれぞれ紹介があった。

(2) シンポジウム

「過去の災害から学ぶ」一突発的に発生した斜面災害の事例から一というテーマでシンポジウムを開催しました。

応用地質(株)社友の上野将司様より「岩盤崩壊に学ぶ～第 2 白糸トンネル岩盤崩壊を中心に～」と題して、千葉大学名誉教授の古谷尊彦先生より「昭和 60 年に発生した地附山地すべりの実態と地形・地質的課題」と題して、新潟大学名誉教授の丸井英明先生より「蒲原沢土石流災害について～初期積雪期の土石流発生事例～」と題してそれぞれ講演が行われました。

最後に、櫻井正明関東支部長をコーディネータとして、各講演における総合討論が行われ、活発な意見交換が行われました。

(3) 意見交換会

東京大学の山上会館において、参加者同士で近況報告や意見を交換し、親睦を深めました。

（文責：関東支部幹事会 平木慎一）



総会の様子



シンポジウム講演の様子

(公社) 日本地すべり学会関東支部 平成 29 年度第 1 回現地検討会 開催報告 —平成 28 年 9 月台風 13 号に伴う集中豪雨による土砂災害—

1. 実施概要

関東支部では、「土砂災害現場を実際に歩き、地形・地質・土砂移動現象をじっくり観察し、参加者で議論する」ことをテーマに年 2 回の現地検討会を開催しています。今回は、群馬県環境森林部森林保全課、利根沼田環境森林事務所並びに国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所の協力のもと、昨年 9 月の台風 13 号豪雨で発生した山腹崩壊・土石流災害地において現地検討会を行いましたので、報告します。

- (1) 開催日：平成 29 年 8 月 3 日（木）
- (2) 開催場所：群馬県沼田市利根町柿平地区
- (3) 主催：(公社) 日本地すべり学会 関東支部
- (4) 協力：群馬県環境森林部森林保全課・利根沼田環境森林事務所・国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所
- (5) 参加人数：19 名（うちオブザーバー参加 4 名）

2. 現地検討会の内容

柿平地区では平成 28 年 9 月 7 日の最大時間雨量 73mm、最大 24 時間雨量 125mm の豪雨を起因として、3 箇所で山腹崩壊が発生しました。そのうち 1 箇所では土石流となって流下し、人家半壊 2 戸、一部損壊 2 戸、市道・林道への土砂流出の被害が発生しました。当地域の地質は、上流域では石炭紀～二畳紀の戸倉オフィオライト、下流域ではジュラ紀の砂岩・頁岩層からなる岩室層から構成されています¹⁾。また、凹地には二次堆積物と推定される軽石層が 1m 以上の層厚で堆積しています。山腹崩壊は、この軽石層で発生しており、途中、主に火山岩礫を含む溪床堆積物を侵食しながら流下しました。

検討会ではまず、屋内にて利根沼田環境森林事務所担当者から上流域における山腹崩壊の発生状況と、治山事業における対策工計画及び進捗状況をご紹介頂きました。続いて場所を現地に移し、利根川水系砂防事務所担当者から土石流の氾濫状況と、砂防事業における応急対応及び恒久対策工事についてご説明を頂きました。その後、ベテランから若手までの参加者全員で、ハンマーで石を叩き、捻じり鎌で軽石層を削りながら崩壊地の踏査を行い、崩壊発生メカニズムについて議論しました。

本検討会では、近年、頻発する火山砕屑物分布域での土砂移動現象と、治山事業が行われている上流域から、砂防事業が進められている下流域までの流域全体での土砂災害対策について見学することができ、非常に有意義な機会となりました。

3. おわりに

関東支部では、今後も現場に密着した現地検討会や学

生・若手技術者の育成をテーマとした活動を実施していく予定です。

最後に、本現地検討会の開催にあたり、御協力頂いた群馬県環境森林部森林保全課、利根沼田環境森林事務所並びに国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所の関係者各位には大変お世話になりました。ここに記して、厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 群馬県地質図作成委員会（1999）：群馬県 10 万分の 1 地質図。



写真-1 治山事業に関する講義



写真-2 砂防事業に関する現地説明



写真-3 現地踏査状況

(関東支部幹事会 滝口 潤・齊藤雅志・林 一成)

(公社) 日本地すべり学会関東支部 平成 29 年度第 2 回現地検討会 開催報告 —平成 27 年 9 月関東・東北豪雨災害 芹沢地区—

1. 実施概要

関東支部では、「実物を現場でじっくり見て・歩いて・さわってみる」ことをテーマに年 2 回の現地検討会を実施しています。今回は、国土交通省関東地方整備局日光砂防事務所のご協力のもと、「平成 27 年 9 月関東・東北豪雨災害」で発生した土石流災害現場において現地検討会を行いました。以下にその報告を記載します。

- (1) 開催日：平成 29 年 10 月 18 日（水）
- (2) 開催場所：栃木県日光市芹沢地区内
- (3) 主催：(公社) 日本地すべり学会 関東支部
- (4) 協力：国土交通省関東地方整備局日光砂防事務所
- (5) 参加人数：11 名（学会員 8 名，非会員 3 名，うち若手（35 歳以下）2 名）



写真-1 概要説明状況

2. 現地検討会の内容

芹沢地区では平成 27 年 9 月 8 日～10 日にかけて降り続いた豪雨（中三依雨量観測所（国土交通省），連続雨量 603mm，時間最大降雨 57mm）を起因として多量の土砂が流出し住民 2 名が負傷し，人家全壊 5 棟，半壊 1 棟の被害を受けました。土砂の流出は 7 溪流から確認されましたが，最も奥に位置する田茂沢では砂防堰堤が既に整備されており，流出した土砂を補足したため集落への被害はありませんでした。

検討会ではまず，国土交通省関東地方整備局日光砂防事務所のご担当者様から被害の発生状況，緊急対応時の状況，対策工事などについてご紹介頂きました。続いて，参加者全員で現地踏査を行い，土砂の流出を未然に防止した透過型砂防堰堤や，新たに整備された透過型堰堤，土石流が発生した溪流沿いの崩壊地などを視察しました。

検討会中は参加者の間で流域内の地質や流出した土砂の発生源，透過型砂防堰堤の種類などに関して活発な意見が交わされました。



写真-2 崩壊地の視察状況

3. おわりに

関東支部では，今後も現場に密着した現地検討会を実施していく予定です。現地検討会の開催地などにご希望がございましたら，担当幹事までご意見をお寄せください。

最後に，本現地検討会の開催にあたり，国土交通省関東地方整備局日光砂防事務所の関係者各位には大変お世話になりました。ここに記して，厚く御礼申し上げます。

参考文献

国土交通省関東地方整備局日光砂防事務所(2017)：2015 年日光市芹沢地区土石流災害



写真-3 現地検討会参加者の集合写真

(関東支部幹事会 齊藤雅志・滝口 潤・林 一成)

(公社) 日本地すべり学会関東支部 平成 29 年度基礎技術現地見学会 「地すべりの基礎を学ぶための現地見学会」 開催報告

1. 実施概要

関東支部では、地すべりに関心のある学生や、地すべりに関する基礎知識を深めたい技術者の方々を対象として、現地見学会を開催しました。

現地見学会は、専門スタッフから地すべりについて話を聞いた後、現地で実際の地すべり現象や防止対策の状況を見ることにより、地すべりに関する基礎技術を学んでもらうものです。現地見学会は、神奈川県及び相模原市の協力を得て、平成 23 年 9 月の豪雨により地すべり活動がみられ対策が行われた名倉地区で行いました。ここでは、この現地見学会の概要について、報告します。

- (1) 開催日：平成 29 年 9 月 22 日（金）
 - (2) 開催場所：神奈川県相模原市緑区名倉地内
 - (3) 主催：(公社) 日本地すべり学会 関東支部
 - (4) 協力：神奈川県県央地域県政総合センター農政部森林土木課・相模原市都市建設局道路部津久井土木事務所
 - (5) 参加人数：35 名（うちスタッフ 5 名）
- * この現地見学会は、若手対策費（会員数対策 WG 計上分）支出事業として行っております。

2. 現地見学会の内容

午前の講義では、関東支部技術委員の上野将司氏に「地すべり調査に際して役立つ知識」と題して地すべりの基礎をお話いただきました。講義の内容は、地すべり現象の特徴とそれらを見抜く観察力を養うための注意点や、地形判読や地質及び変状観察の大切さ、データに基づく崩壊の予測と経験談、対策工選定上の留意点など、約 2 時間の講義があつという間に感じられるほど充実したものでした。

午後は、相模湖沿いの更新世段丘堆積物が分布する集水地形で発生した地すべり変状と対策施設を見学した後、室内に戻り調査観測機器を間近に触れてもらう機会を設けました。

現地見学会は、集水井や排水ポーリングなど地下水排除の対策工や、渓岸浸食防止の大型フトンカゴなど一通り見ていただきました。地すべりの変状は、道路の補修などにより全容を見ることはできませんでしたが、傾いたガードレールや擁壁の開口亀裂状況などからすべりの様子を見ていただきました。

観測機器に触れる時間は、会場がやや手狭でしたが、距離感が近く落ち着いた雰囲気の中、活発な質疑が行われ非常に有意義な機会となりました。

3. おわりに

関東支部では、今後も現場に密着した現地検討会や学生・若手技術者の育成をテーマとした活動

を実施していく予定です。

最後に、現地見学会の開催にあたり、ご協力いただいた神奈川県県央地域県政総合センター農政部森林土木課と相模原市都市建設局道路部津久井土木事務所の関係者各位、会場をお借りした藤野中央公民館の方々には大変お世話になりました。ここに記して、厚くお礼申し上げます。



写真-1 午前中の講義



写真-2 地すべり現象の現地見学



写真-3 集合写真（午後の会場にて）
（関東支部幹事会 谷本 彰・林 一成）

「地すべりを学ぶ座談会 2017」開催報告

(公社) 日本地すべり学会関東支部

1. 実施概要

- (1) 日時：平成 29 年 11 月 8 日 (水) 14:00-17:00
 - (2) 会場：TKP スター貸会議室東京駅八重洲 301
 - (3) 主催：(公社) 日本地すべり学会 関東支部
 - (4) 講師：上野将司 ((公社) 日本地すべり学会解説委員・関東支部技術委員)
 - (5) 参加人数：16 名 (うち講師・スタッフ 7 名)
- *この現地見学会は、若手対策費(会員数対策 WG 計上分)支出事業として行っております。

2. 実施内容

地すべり学会関東支部では、講師に関東支部技術委員の上野将司氏をお迎えして、地すべりを学ぶための座談会を実施しました。座談会では、上野氏の話題提供に加えて、事前に参加者から募集した「地すべりに関する疑問や知りたいこと・困っていること・相談したいこと」などに関して、座談会形式の意見交換を行いました。

上野氏からは、「地すべりの調査・研究の進め方

と題して、ご経験を踏まえた地形・地質・地下水・現地調査・すべり面等に関する調査や研究について、網羅的な解説をして頂きました。また、その後の座談会では、自己紹介の後、参加者から募集した疑問などについて、上野氏や参加者同士の間で各位の経験や知識を踏まえたアドバイスや情報共有がなされ、活発な意見交換が行われました。

3. おわりに

今回の座談会では、35 歳未満の若手の方 3 名をはじめとして、幅広い年代の方にお集まりいただき、色々な方の意見を聞くことができました。また、学会員外の参加者として、気象予報士の方にも参加して頂き、他分野との交流もできたと思います。

関東支部では、今後も地すべりに関する知識や技術を啓発し、地すべり学会の活動を広く周知してもらうための活動を行っていきたく考えています。

(関東支部幹事会 林 一成・谷本 彰)



支部長あいさつ



会場の様子



上野氏による話題提供



座談会形式の意見交換

(公社)日本地すべり学会 関東支部・(一社)斜面防災対策技術協会 関東支部 「栃木県上塩原地区地すべりの現地見学会」開催報告

1. 実施概要

関東支部では、例年(一社)斜面防災対策技術協会 関東支部との共催事業を行っております。今年度は、平成27年9月関東・東北豪雨によって発生した地すべり被災地と対策工事状況を見て学ぶことを目的に、現地見学会を行いました。以下に報告します。

- (1) 開催日：平成29年11月28日(火)
- (2) 開催場所：栃木県那須塩原市上塩原地区
- (3) 主催：(公社)日本地すべり学会 関東支部 および
(一社)斜面防災対策技術協会 関東支部
- (4) 協力：栃木県県土整備部砂防水資源課・大田原土木事務所、国土防災技術株式会社、株式会社谷黒組、株式会社生駒組、芙蓉地質株式会社、株式会社エスイー
- (5) 参加人数：28名

2. 現地見学会の内容

栃木県上塩原地区地すべりは、平成27年9月の関東・東北豪雨によって発生した地すべりで、滑落崖上部家屋が被災し、移動土塊が一時、直下の一級河川赤川を塞ぎ止めました。崩壊規模は、幅170m長さ100mで、保全対象は人家8戸と対岸の赤川発電所です。この地すべり災害に対し、初動対策として観測および緊急警報システムが整備されると共に、災害関連緊急地すべり対策事業として採択され栃木県が地すべり対策工事を実施しています。

見学会では、まず県のご担当者から地すべり対策事業の概要説明をして頂き、その後、調査・設計・施工の各担当業者からボーリングコアや被災写真、調査・設計の資料をもとに説明を受けました。

その後は、地すべり地内の自由見学となりましたが、変状の痕跡がある地層の露頭を前にして、その成因を地形や地質の観点から活発な議論がなされるなど、参加者相互の技術的な交流をはかることもでき、大変有意義な見学会となりました。

3. おわりに

関東支部では、平成27年3月に(一社)斜面防災対策技術協会 関東支部と協力協定を締結して以来、共催事業として現地見学会を合同で開催してまいりました。今後も、地すべり等の技術の普及、啓発のために、共催事業を継続的に実施していく予定ですので、ご協力ご支援のほどよろしく申し上げます。

最後に、今回の現地見学会の開催にあたり、ご協力をいただきました栃木県をはじめとする関係者の方々に、厚く御礼を申し上げます。



写真-1 概要説明状況



写真-2 地すべり地内見学状況



写真-3 現地での集合写真

(関東支部幹事会 木村勝美)

(公社)日本地すべり学会関東支部 災害調査 開催報告
- 平成 29 年 10 月台風 21 号災害 群馬県高崎市吉井町日向地区 -

1. 実施概要

関東支部は、群馬県環境森林部と「災害時おける調査の相互協力に関する協定」を締結しており、この協定に基づき、平成 29 年 10 月台風 21 号に伴う豪雨により発生した地すべり箇所の災害調査を実施しました。以下にその報告を記載します。

- (1) 実施日：平成 29 年 10 月 25 日（水）
- (2) 実施場所：群馬県高崎市吉井町大字多胡日向地区
- (3) 参加人数：6 名

2. 災害調査の内容

本調査は、群馬県環境森林部森林保全課からの災害協定に基づく調査依頼により実施しました。台風 21 号に伴い連続雨量 208mm(10 月 21 日 1 時～10 月 23 日 6 時、雨量観測所：吉井)の降雨があり、地すべりは 23 日 6 時頃に発生しています。

地すべり規模は幅約 75m、長さ約 50m で、頭部には高さ 10m 超の滑落崖を形成し(写真-1)、末端部では高崎市道の隆起を伴う押し出しによる被災が確認されました(写真-2)。地すべり地内には、数mの段差が数段認められ、その下方斜面は山側に傾動している状況が確認されました(写真-3)。

また、調査後に今後の調査内容や近隣住民の避難体制について群馬県及び高崎市に助言を行いました(写真-4)。

3. おわりに

協定に基づく災害調査が初めてであったこともあり、支部内での連絡体制等に混乱が生じてしまいました。今後、対応マニュアル等の整備を行っていきたく考えています。最後に、災害調査の機会を与您いただきました群馬県環境森林部森林保全課の関係各位に感謝いたします。



写真-1 頭部滑落崖の状況



写真-2 末端部の状況



写真-3 地すべり地内の段差の状況



写真-4 現地での調査結果説明状況

(関東支部幹事会 小林豊)

支部会員の皆さまへのお知らせ

関東支部からの行事等の連絡は、主として、学会メーリングリスト、関東支部 Web ページを通じて行います。

学会メーリングリストにぜひ登録してください。

学会メール配信サービス

学会メーリングリスト (jisuberi) への登録等は、学会 Web ページを参照してください。

学会 Web ページ 会員 自由参加のメーリングリスト：

https://japan.landslide-soc.org/join_index/maillinglist_index.html

関東支部 Web ページ

学会 Web ページから、「関東支部」をクリックしても入ることができます。

<https://japan.landslide-soc.org/kanto.html>

会場案内図

総会及びシンポジウム：武田先端知ビル5階・武田先端知ホール

東京都文京区弥生2-11-16 東京大学工学部内(浅野キャンパス) 武田先端知ビル (TEL 03-5841-1163)

意見交換会：東京大学農学部・レストランアブルボア

東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内(弥生キャンパス) 向ヶ岡ファカルティハウス1階(TEL:03-5840-8901)



東京大学本郷キャンパスマップより

1) 支部総会

期日：平成30年5月7日(月) 11:00 - 12:00 (受付開始 10:45)

場所：東京大学工学部武田先端知ビル5階・武田先端知ホール(東京都)

2) シンポジウム

期日：平成30年5月7日(月) 12:45 - 16:45 (受付開始 12:15)

場所：東京大学工学部武田先端知ビル5階・武田先端知ホール(東京都)

参加費：支部会員・一般2,000円(学生無料)

3) 意見交換会

期日：平成30年5月7日(月) 17:15 - 19:15

場所：東京大学農学部・レストランアブルボア(東京都)

参加費：支部会員・一般5,000円